

編集後記

例年は「無事、図書館学年報の刊行に至ることができた。」から始まる編集後記であるが、今年度は世界中を覆った新型コロナウイルス感染症拡大対策のために本学司書課程の運営も例年とは大きく形を変えざるを得ず、その影響がこの年報掲載記事に大きくあらわれている。例年実施している司書課程講演会は今年は開催できず、IFLA や図書館総合展への学生の現地参加もかなわなかった。図書館見学ツアーも中止を余儀なくされており、ほぼ例年掲載されていたコンテンツの多くが今回の年報には掲載できていない。

春学期には対面授業が一切おこなえず、DUALIS も集まっての勉強会等は実施できなかった。秋学期には感染者数の減少に伴って対面授業が一部再開され、司書課程資料室で再び学生諸君の顔が見られるようになったものの、その後、再び感染者数が拡大し、学生生活も緊張を余儀なくされた。司書課程・司書教諭課程の学生諸君に図書館ツアーをはじめとする豊富な体験の場を提供できなかったことは本当に申し訳なく思う。そのような中でも、「よりぬき DUALIS 日誌」にあるとおり、オンラインや密を避けつつの勉強会開催など、工夫を凝らして活動する DUALIS や司書課程・司書教諭課程の皆さんの姿が見られた。就職活動も例年にはない困難が強られる中、九州大学附属図書館に採用された安田さくらさんから、「司書合格体験記」をご寄稿いただいた。力の入った原稿は、図書館への採用を目指す後輩の皆さんにとっても大いに参考になるものと思う。また、図書館も一時は全国において休館せざるを得ない等、前例のない困難に直面していたが、そのさなかに新人として採用された西村清宏さんに「私の仕事 この一年」をご寄稿いただいた。まさにコロナ禍における図書館でのご経験についても触れられており、その中で「改めて図書館の役割について深く考えさせられた」という前向きな言葉もいただいた。

幸いにして図書館現場演習は、感染拡大が小康状態の時期であったこともあり、履修者全員に受けていただくことができた。困難な状況下にも関わらず、感染拡大防止に配慮しながらも実習を受け入れていただいた実習館の皆様には心より感謝申し上げたい。

何に触れても新型コロナウイルス感染症の話が出ざるを得ない2020年度であったが、大学院図書館情報学コースでは8名もの学生が今年度、修士論文を提出・修了された。これまでの修了者の方も含め、今号にこれまでの修士論文のタイトル等の一覧を掲載している。ご興味・ご関心のあるテーマがあれば、問い合わせいただければ幸いである。

最後に、日ごろご支援いただいている免許資格課程センターの皆様、印刷をお願いしている木村桂文社様、協力いただいた学生諸君にもあわせて、ここで感謝を述べたい。特にセンターの皆様と学生諸君には、困難な年度にも関わらず様々なご尽力をいただき、本当にありがとうございました。

(佐藤翔)